海外の高校生と交流－ICT の活用

U-18 未来フォーラム事業　平成30年度全道フォーラム　　**AKB Future Project 推進委員会**

■日　程　平成 30 年１２月１０日（月）　10:10～15:00
■生　徒　本校生徒　　４回生４名　５回生１名　　事業指定校　生徒２７名
■会　場　北海道立教育研究所
■U－１８未来フォーラム事業とは
　道立高等学校及び道立中等教育学校（後期課程）の生徒が国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力を高めることをねらいとし、ＩＣＴを活用して海外の高等学校等との交流を行い、国際理解教育及び外国語教育を推進していくものである。

公開交流授業

今回の全道フォーラムでは、本校は Armidale High School との、札幌啓成高等学校は Maleny State High School との交流授業を北海道立教育研究所で実施しました（両校ともに相手校は、オーストラリア）。本交流授業には、事業に指定された他校の生徒も参加しました。

登別明日とアーミデール高校の交流授業

いつも校内で行っている交流と同じように、４０分のセッションで、プレゼンテーションは、日本からは２本、オーストラリアからは１本行いました。

最初のプレゼンテーションでは、本校の４回生の生徒が、日本の高校生の一日について、玄関での靴の履き替えから、お弁当の紹介、ＳＨＲ、部活動など、写真を使って紹介しました。

オーストラリアからも学校生活の紹介、制服や校章、体育祭などの行事を紹介してくれました。農業関連の授業もあるため、動物を飼育しているとのことでした。

日本からの２つ目のプレゼンテーションのテーマは、学校行事で、文化祭、体育祭、クラス替えのことなどを紹介しました。文化祭のＡＷＦ（クラス展示）に関して、"Where are they?"の質問は、笑いを誘いました。５回生の吉井さんが、他校生や明日生などに発言を促して上手に進めていました。

札幌啓成高校の交流授業

ＳＳＨの指定を受けている札幌啓成高校は、課題研究の一環として、テレビ会議を利用しながらオーストラリアの高校と意見交換を行っています。現在、日本から数名の生徒がオーストラリアを訪問し、現地でグループ討議を行い、当日は討議内容についての共有をしました。同じテーマについて、海外の高校生と深い話ができる事例であり、今後の参考になるものでした。

グループ交流

午後は、各校の実践発表を聞き、各校の海外交流等の状況について意見交換しました。生徒たちは、他校の発表を聞き、本校と同様の取組や、取り入れた方がいいような取組など、いろいろな発見がありました。

今回参加した生徒たちは、英語学習へのモチベーションの向上や、他校生との交流から、自分の置かれている状況への気づきなどいろいろな収穫があったようです。

【生徒の感想】（一部）
- 発音をきれいにし、返答するときの語彙力をもっと増やすべきだと感じました。
- 「英語は何かをするための手段」と言われて、私は大学に入るためだけに英語を勉強していたが、大学受験のその先、さらには海外で働いてみたい、という夢を叶えるために勉強を頑張ろうと思いました。
- 明日は、ＡＬＴが２人もいて、ネイティブスピーカーと接する機会が多くあります。自分は恵まれた環境にいると痛感しました。これからもっと積極的に話していこうと強く思いました。